

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277102113		
法人名	医療法人社団 静隆会		
事業所名	グループホーム市野の家		
所在地	浜松市東区市野町287番-1		
自己評価作成日	平成22年3月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区中町24-2 若杉ビル2階
訪問調査日	平成22年4月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念でもある「明るい笑顔 優しい対応 心の触れ合いと家庭のぬくもりを大切に」を基に職員が一丸となり今日も楽しかったと思って頂ける様取り組んでいます。家族とのコミュニケーションも大切にし、いつでも気軽に訪問でき居心地良く過ごせる様配慮しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は事業所の掲げる理念への理解が深く、実践に向けて一丸となりケアに取り組んでいます。全職員で利用者主体の介護計画を作成しているので、利用者は安らぎを覚え、家族は安心感を抱いています。利用者の思い・意思を把握するための語り掛けには特に気を配り、ゆつくりとした聞き取りやすい口調で話し掛けをしています。地域に溶け込むホームを目指し、夏祭りやクリスマス時には大勢の地域住民と交流を深めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき家庭で暮らしているような気持ちで過ごせる様取り組んでいます。	事業所の理念である「明るい笑顔、優しい対応、心のふれあいと家族のぬくもりを大切に」を全職員が振り返り、申し送りや会議で確認し合っている。全職員が笑顔で利用者に接し、日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会しています。地域で行なわれるお祭りや敬老会に参加させて頂いています。	自治会に加入し、地域の祭り、老人会に参加している。日々の挨拶は勿論の事、夏祭り、クリスマスのイルミネーションの時には地域の方々が大勢訪れる。日々の交流の中で地域の人に介護相談の協力ができる事を伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議にて認知症についての理解を深めて頂く議題も取り上げています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	少しずつ馴染みの関係も築かれ、回を重ねる毎に意見もたくさん頂き、その意見をサービス向上に活かしています。	2ヶ月に1回、利用者、家族、自治会長、民生委員、地域包括センター、区役所職員、ケアマネジャー、見守り職員を除く全職員参加で開催されている。議題により協力医師、看護師にも参加を依頼する。それぞれの立場から意見を頂き、サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは行き来する機会を作り相談させてもらっています。市の相談員は月に一度来設して頂いています。	市担当者は運営推進会議に毎回出席し、介護保険の更新、生活保護の件で訪庁時に相談もしている。市の相談員は月に1度訪問、情報交換や相談を行う等協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠については職員の人数が減った時は安全を考え施錠しています。身体拘束をしないという認識を職員全員がしている。	全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解し、安全面に配慮して自由な暮らしを支援している。職員体制により安全面を考慮し、日中の玄関施錠をすることもあるが、家族には状況を説明して了解をとっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	セミナーに参加もし常に職員間でも話し合いを持ち職員全員が虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の御家族が成年後見人制度の手続きをされたりその為の訪問調査があり理解はしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際の説明又は質問に答えています。説明した上で必ず契約書にもう一度目を通す様お願いしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度の運営推進会議にご家族2名、可能であれば利用者様にも参加して頂き意見交換をしております。	利用者の思いを日々のケアの中で聴きだせる様接している。家族には訪問時声かけをし、何でも言える雰囲気を作っている。出された意見要望等は職員会議で話し合い改善するなど、運営に反映している。	これからも継続されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の定例会で一人ひとりの意見を聞いたり各館で話し合われた事を各館の計画作成者と話し合います。	毎月の定例会で職員一人ひとりが意見を出す機会を持ち、日ごろの会話の中でも要望を言える。職員の考えを各館の計画作成者と話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境作りや行事や畑作り役割分担をし個々の個性が生かせやりがいが持てる様に努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内の研修は全員参加。他からの研修等への参加案内又は資料を回覧しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等への参加で他施設との意見交換や時には施設見学の申し出を受けたりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴等の資料を元に話の中で不安な事 要望等を見つけ出し受け止める努力をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や希望を伺い受け止める努力をしています。コミュニケーションも大切にしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の希望を優先し対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭のぬくもりを大切にを理念とし共に行動をし職員は学ばせて頂くという気持ちでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を説明し意見や希望など気軽に相談できるような関係を築けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きたい場所へお連れしたり会いたい方への連絡を取ったりしています。	家族と協力して、行きつけの店、希望する馴染の場所、墓参りなどに出掛けている。外出・会話が困難な利用者には手紙のやり取りや、写真を飾るなどして繋がりを継続できるよう工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の個性を活かしよい関係が築ける様職員が間に入り利用者同士が関われる様になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族本人にはいつでも相談に応じる事を伝えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望を伺い意思を尊重しています。	日々の関わりの中での言葉や表情、行動から、思いや暮らし方の希望、意向を把握するように努めている。家族からも話を聞いている。センター方式を活用し、情報を職員間で共有し、利用者本位の支援を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴などを把握しその人らしい暮らしを支えられる様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個々の状態を記録し現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の求めている事を引き出しカンファレンスを行い介護計画を作成しています。	全職員が利用者、家族との関わりの中で意見交換を行い、介護計画を作成している。アセスメントとモニタリングを繰り返し、現状と介護計画がかみ合い良いケアに繋がる様にカンファレンスを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し情報を共有し介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望に可能な限り対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺地域の機関からの協力と理解を得られる様働きかけています。ボランティアの方たちとの協力で楽しい時間を過ごして頂いたりしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	治療方法対処方法について相談し指示を仰ぎ本人家族にも説明をしています。	本人、家族が希望するかかりつけ医への受診は基本的には家族が付き添う。かかりつけ医のない場合は、ホームのかかりつけ医で対応している。協力医療機関への通院は職員が対応し、3ヶ月ごとに事業所の協力病院の往診が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に2度の訪問時には入居者の日頃の状況を細かく説明し健康管理を行なっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族医療機関との連絡を密に取り早期退院に向けての話し合いを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人 家族 医師とその都度話し合いを行います。今後の変化に備えられる様取り組んでいます。	医師、職員での連携体制の基で、本人や家族の意向を踏まえ、重度化した場合等の対応について話し合いが行われている。病院を希望する家族にはグループの病院を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署指導の元、年に一度蘇生訓練を行なっています。又、急変時には各館職員が協力、応援に入る体制を整えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	初期消火避難訓練を行い職員間で話し合いも行われています。	年に一度消防署の協力を得て救急法AEDの使い方、消火器の使い方などの訓練を実施している。更に夜間想定防災訓練も利用者と共に別の日に行っている。定例会で火災報知器の取り扱いを周知徹底し、食料備品など備蓄もされている。来年にはスプリンクラーの取り付けも予定されている。職員は携帯センサーを持って業務についている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない様言葉使いや対応に配慮している。	利用者一人ひとりが自己決定する事を尊重し、人格や、羞恥心に配慮した言葉かけや支援を行っている。どの館でも対応できるように対応方法など定期的に検討し職員で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定の支援が出来る様に場面作りや環境作りをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	感情表現ができる様な働きかけをし一人ひとりのペースを乱さぬ様その人らしく過ごす事ができる様支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい個性を大切に身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いています。プライバシーにも配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味つけは勿論、見た目にも気を配り、器への盛りつけや彩りも工夫をし、食事を楽しんで頂ける様支援しています。	食材は月曜～金曜までは配食センターを活用し、土、日、祝日は利用者の希望を取り入れたメニューを工夫している。調理や、テーブル拭き、後片付け等利用者の状況に合った仕事を職員と一緒にやっている。会話も弾み、楽しい食事時間を過ごしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や習慣に応じて声かけ介助しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	汚れや臭いが生じない様歯磨きの声かけ、介助、義歯の手入れを行なっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し排泄の自立に向けた支援を行なっています。	入居1ヶ月位排泄チェック表をつけパターンを把握し、トイレで排泄できるようその人に合わせたトイレ誘導を支援している。またオムツ使用を出来るだけしない様に排泄の自立に向け支援を行っている。	これからも、トイレでの排泄支援をされることを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫、運動の声かけを行なっています。医師の指示も仰ぎ服薬介助も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	健康状態を確認し入浴可能かの見極めをしています。一人ひとりの希望に合わせたくつろいだ入浴ができる様支援しています。	14時～16時の間で入浴できる。仲の良い人同士で一緒に入りたい、一人で時間をかけてゆっくり入りたいなど利用者個々の希望に配慮し、入浴を楽しむ支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が過ごしやすい形をとって頂き、一日の生活リズム作りをし安眠できる様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが医師の支持通りに服薬できる様支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりができることへの役割を分担して頂き、負担にならない様注意しながら支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出できる機会を作り買い物等楽しく行なえる様支援しています。	一人ひとりの習慣や楽しみに合わせた散歩や買い物が行われている。環境が整っているため職員は積極的に外出支援をしている。家族やボランティアの協力を得ながら花見、5月の遠足、紅葉狩り、夏祭り、初詣など季節を楽しむ外出ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員が行なっていますが、買い物の支払い時には手渡しをし払ってもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を利用できる様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を出せる様木材を多く使用し落ち着いて暮らせる様にしています。不快な音、光が出ない様配慮もしています。	居間や廊下は光がよく差し込み明るく、気持ちのよい清潔感あるフローアに整えてられている。玄関等の共有空間には利用者の好きな音楽が流れ、利用者が描いた作品、装飾品、写真が飾られ、居心地が良い。五感刺激への配慮も工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が過ごせる様配慮し、独りになれる居場所作りにも工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や好みの物を持ってきて頂き、安心して居心地良く過ごせる様支援しています。	使い慣れた家具や好みの物、写真や思い出の品々を持ち込み、居心地の良い温かい居室となっている。模様替えの際は職員も相談に応じている。西日が当たる居室はスタレで日よけをするなど、住環境に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名前を記し、目印に扉にぬいぐるみ等をつけ分かりやすい様にしています。		